

★ _____ ★
☆☆★ いわて マナビィ マガジン ★☆☆
☆☆ No.113 2016. 6. 10. ★☆

★ _____ ★
***** I N D E X *****

1. センター便り 『あなたのための研修会』
2. 教振なう！ 『教育振興運動推進研修会レポート（前編）』
3. 編集後記 ～ピエロが行く！～

★ _____ ★
1. センター便り 『あなたのための研修会』

★ _____ ★

当センターは、研修事業の実施を大きな柱としておりますが、その内容は受講者のニーズを踏まえるほか、県の生涯学習・社会教育施策の推進に資することを考え、事業のあり方から検討を重ねてきています。

例えば、地域においてきめ細やかな子育て支援を行うためには行政職員だけでは限界があり、地域における子育て支援に関わる人材を増やし、その活動を支援していく必要があります。そこで、平成12年度から平成26年度まで子育てサポーターの養成に取り組み、子育てサポーター等の地域における子育て支援関係者の活動を促進するために子育て支援に係る研修会を実施してきました。

しかしながら、昨年度の研修会の参加者状況は職業として子育て支援に関わる方が多く、子育てサポーター等の地域において活動する子育て支援関係者が少ないという状況でした。この課題を踏まえ、今年度は対象者とねらいを明確にし、①子育て支援関係者の協力を仰ぐ側である市町村行政担当者のための「家庭教育・子育て支援担当者研修会」、②子育て支援関係者のスキルを高めるための「子育てスキルアップ研修会」、③子育て支援関係者の地域ネットワークを構築する「子育て支援活動交流研修会」の3つに分けて行うこととしています。

また、同様に学校支援地域本部事業の推進にあたっては、①推進の核である地域コーディネーターを対象とした「学校支援地域コーディネーター等研修会」と②先生方が地域連携の理解を深めるための「学校と地域の協働のための研修会」に対象者を絞ることにしました。

当センターで『事業プログラム企画運営研修講座』の講師をされた斎藤主税先生も、「ねらいや対象者を絞り込むことは、参加者を制限するものではなく、事業内容を明確にすることでより参加しやすくする」とおっしゃっていました。今まで以上に“あなたのための研修会”を意識して企画しております。どうぞ、ご参加ください。

★ _____ ★
2. 教振なう！ 『教育振興運動推進研修会レポート（前編）』

★ _____ ★

（振ちゃん） 皆さん、こんにちは。こちら現地レポーターの振ちゃんです。今月に入って各教育事務所が主催する「教育振興運動推進研修会」が始まっています。

（教ちゃん） こちら、スタジオの教ちゃんです。振ちゃんは、今、どちらの会場にいるのですか？

（振ちゃん） え～、私は今、盛岡地区の会場である「姫神ホール」に来ています。本当にたくさんの皆さんが集まっています。

（教ちゃん） そうですか、楽しみです。それでは振ちゃん。これまで行われてきた県南地区、沿岸南部地区、県北地区の研修会の様子を報告して下さい。

（振ちゃん） わかりました。県南地区と沿岸南部地区では、昨年度、盛岡地区・宮古地区でも講演を行いました玉川大学大学院教授 近藤昭一先生の「情報メディア」の講演が行われました。とてもお話がわかりやすいと評判の方です。

（教ちゃん） そうですか。市町村でも近藤先生をお招きして「情報メディア」の講演会をおこなうのもいいですね。

（振ちゃん） はい。特に先生と保護者の皆さんに聞いてもらいたいお話だと思います。そして、今年度の推進研修会は、実践発表に特徴がありました。

（教ちゃん） それは、どういうことですか？

（振ちゃん） 県南地区では奥州市立衣川中学校の「衣中モバイル宣言」、沿岸南部地区では釜石市立釜石中学校の「インターネット利用心得」、県北地区では沼宮内小学校の「情報メディアルール」の実践発表が行われたのでした。

（教ちゃん） 「ルールづくり」に至る取組が紹介されたんですね。

（振ちゃん） そうなんです。「児童生徒の実態把握の段階」から「ルールづくりの段階」へ、各学校が今後の見通しを持つことができるように先進的な取組が紹介されたのです。

（教ちゃん） 今年度は、発表いただいた3校のように「ルールづくり」に取り組む学校が増えていくことでしょうかね。

（振ちゃん） はい。そう思います。

（教ちゃん） はい。振ちゃん、ありがとうございました。今月行われている推進研修会の前半3地区の報告でした。次回は、盛岡地区、中部地区、宮古地区の推進研修会の様子を報告したいと思います。

（振ちゃん） は～、真面目に話すのって疲れちゃうよね。やだやだ。

（教ちゃん） あっ！もしもし、振ちゃん、まだ画面に映ってますよっ。

（振ちゃん） えっ？マジ？やべっ！・・・皆様、失礼いたしました。



3. 編集後記 ～ピエロが行く！～



「今、自由に使える1時間があったら、あなたは何にを使いますか？」

時計大手メーカーの「シチズンホールディングス」が全国の小学4～6年生400人を対象に意識調査をしたところ、「ゲームをする」が第1位で135人（34%）でした。

私が小学生の頃は、ドラえもんの世界のように時間があれば友だちと草野球をして遊んでいたものですが、「友だちとあそぶ」と回答したのは92人（23%）でした。喫茶店にテーブル型インベーダーゲームが並び始めたのが私が高校生の頃。飲み物代の他にゲーム代が1回100円で、1000円なんてアツという間に消えてしまいました。以来、ゲーム嫌いとなり、今に至っています。

「時間があつたら何をする？＝ゲームをする」と答える今の子どもたち・・・それほど生活の中にゲームが浸透し、当たり前ものになっているのですね。この調査で「自分にとって大切な時間」を尋ねたところ（複数回答）、25%の子どもたちが「ゲームの時間」と答えています。睡眠52%・食事49%・家族と一緒に過ごす時間41%の3つが上位を占めていますが、1/4の子どもたちがゲーム時間を大切に考えていることもショックでした。

さて、あなたは、自由に使える時間があつたら、何に使いますか？ 今日、6月10日は「時の記念日」です。時間の使い方を子どもたちとともに考えてみたいものです。



このメールマガジンは、県内小中学校、社会教育関係者及び生涯学習・社会教育に関心を持たれている登録者の皆様に無料で配信しています。ご意見・ご感想、登録・登録解除は下記アドレスにご連絡ください。⇒ E-mail；atu-satou@pref.iwate.jp

メルマガのバックナンバーをセンターHP「まなびネットいわて」で閲覧できます。⇒ <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

左下の「発行物・刊行物」>「いわてマナビマガジン」をクリック



発行：岩手県立生涯学習推進センター（花巻市北湯口2-82-13）

編集：佐藤敦士